

# ひまわりプロジェクト（BDF精製・利用）

事業主体 斐川町  
実施場所 斐川町

## 取組概要

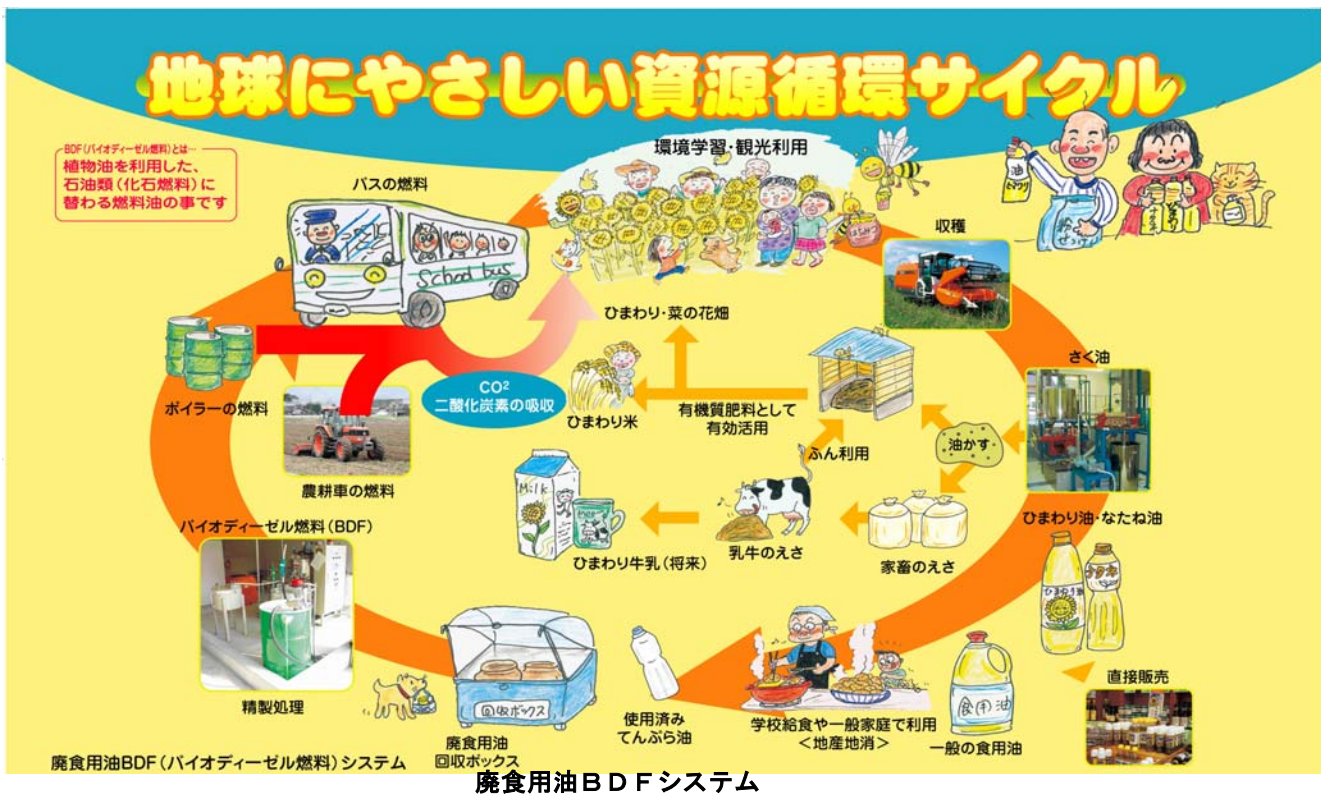
廃食用油を回収しBDFを精製。公用バス3台の軽油代替燃料としてB100%で利活用。  
（ひまわりバイオマスプロジェクトの実践）

広大な田園地帯が広がる斐川町の新たな特産物であるひまわり。大輪の美しい花を咲かせるひまわりは、観光・環境面でも大きな効果が期待でき、斐川町では、このひまわりを地域資源循環、環境保全型農業のシンボルとして「ひまわりバイオマスプロジェクト」を推進している。平成17年には斐川町バイオマス利活用計画を策定。現在、町内のバイオマス資源の利活用に向け、ひまわりをキーワードに6つの重点プロジェクトの実践に向け取り組んでいる。このプロジェクト1が、廃食用油をリサイクルしバイオディーゼル燃料として活用する「ひまわりから燃料」である。

ひまわり油を地産地消として地域で食し、一般の食用油とあわせ使用済みのてんぷら油を回収する。回収拠点である各地区のリサイクルステーションや役場、環境学習センターに専用の廃食用油回収ボックスを設置。町のリサイクルの日とも連携し、一般家庭や事業所から持ち出しされた廃食用油を回収し、役場庁舎前にある廃食用油BDF精製ステーションでバイオディーゼル燃料に改質。公用バス3台の軽油代替燃料として、B100%で使用している。回収される廃食用油は1ヶ月当たり500~600ℓ。収集作業やBDF精製は、NPO法人斐川環境AMYネット21が受け持っている。

公用バスは、公民館活動や温泉送迎、学校行事やスポーツ活動など子供から高齢者まで幅広い利用があり、目で見て触れる身近な環境学習としても役立っている。

また、環境保全型農業をめざし、実証試験研究も行っている。ひまわり栽培によって土壌に宿生するVA菌根菌による土づくりを活用し、後作物のビール麦や玉ねぎへの効果をめざす実証試験や農家への普及活動にも取り組んでいる。



BDF専用バス「まんでん号」



廃食用油BDF精製ステーション



ひまわり祭: BDFトレイン